

会 議 名	第2回加美町まちづくり基本条例策定委員会															
開催日時	平成26年 11 月28 日(金) 午後 2 時～4 時															
開催場所	中新田交流センター 研修室 1															
出席委員	<p>【委員15人】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">徳永 幸之 委員</td> <td style="width: 33%;">佐々木 盛雄 委員</td> <td style="width: 33%;">高橋 さやか 委員</td> </tr> <tr> <td>古川 隆 委員</td> <td>渋谷 壽夫 委員</td> <td>門真 めぐみ 委員</td> </tr> <tr> <td>工藤 義也 委員</td> <td>高橋 太治 委員</td> <td>高橋 庸介 委員</td> </tr> <tr> <td>菅原 博志 委員</td> <td>後藤 佐市 委員</td> <td>千葉 敬悦 委員</td> </tr> <tr> <td>高嶋 信子 委員</td> <td>竹中 要子 委員</td> <td>宮野 謙 委員</td> </tr> </table>	徳永 幸之 委員	佐々木 盛雄 委員	高橋 さやか 委員	古川 隆 委員	渋谷 壽夫 委員	門真 めぐみ 委員	工藤 義也 委員	高橋 太治 委員	高橋 庸介 委員	菅原 博志 委員	後藤 佐市 委員	千葉 敬悦 委員	高嶋 信子 委員	竹中 要子 委員	宮野 謙 委員
徳永 幸之 委員	佐々木 盛雄 委員	高橋 さやか 委員														
古川 隆 委員	渋谷 壽夫 委員	門真 めぐみ 委員														
工藤 義也 委員	高橋 太治 委員	高橋 庸介 委員														
菅原 博志 委員	後藤 佐市 委員	千葉 敬悦 委員														
高嶋 信子 委員	竹中 要子 委員	宮野 謙 委員														
欠席委員	府田 政之 委員、近藤 義次 委員、細谷 紀生 委員															
事 務 局	協働のまちづくり推進課 3名 今野課長、尾形係長、中川主事															
傍 聴 人	1人 高橋 徳夫(村田町)															
次 第	<p>(1)開 会</p> <p>(2)あ い さ つ</p> <p>(3)議 事</p> <p style="padding-left: 20px;">①まちづくりへの住民参加について</p> <p style="padding-left: 20px;">②その他</p> <p>(4)閉 会</p>															
配布資料	<p>□次 第</p> <p>□資料1 ワークショップ等で出された意見のまとめ【資料 2～4】</p> <p>□資料2 まちづくりワールドカフェ第 1 回〈町民意見等のまとめ〉</p> <p>□資料3 加美町景観計画策定において調査・検討された内容のまとめ</p> <p>□資料4 第 1 回コミュニティビジネス研修会ワークショップにおける意見のまとめ</p> <p>□資料5 加美町における主な計画(一部)</p> <p>□資料6 加美町の土地利用とまちづくり条例に関するアンケート調査結果</p> <p style="text-align: center;">【まちづくり基本条例分】</p> <p>□参考資料1 (仮称)大崎市協働のまちづくり条例骨子案パブリックコメントの意見の概要に対する回答</p> <p>□参考資料2 (仮称)柴田町住民自治によるまちづくり基本条例案パブリックコメントの意見の概要に対する回答</p>															

【議事における意見の概要】

<p>委員長</p>	<p>【あいさつ】 前回の委員会は主に勉強会だったが、今日から本格的に意見をいただきながら議論していくことになるので、皆さんよろしくお願ひしたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>【議 事】 (1) まちづくりへの住民参加について どういう町にしたいかについては他で議論しているし、委員の中でも参加している方がいるので、重複した議論は避けるということで、今日は具体的に手続き論としてのまちづくり条例について議論いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>参考資料 1.2 に基づき、前回の委員会で質問のあった柴田町と大崎市のブリックコメントの状況について説明。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料 1～6 に基づき説明。</p>
<p>委員長</p>	<p>説明があったように、ワールドカフェやワークショップ等いろんな場面で住民参加が行われている。それらに参加してみでの感想等を、特に住民参加、協働のまちづくりをしていく上で意見をいただきたい。</p>
<p>副委員長</p>	<p>ワールドカフェではファシリテーターを務め、その他にワークショップにも出席した。その度にこの町の未来を憂いているんなことを考えている方がたくさんいるんだと感じた。商店街にぎわいづくり委員会が3地区で活動している中で思うことは、それぞれの人に得意なことをやっていただく、また、そういう人材にお願いをすることが物事の進み具合が早いのではないかと思う。にぎわいづくり委員会の委員にも得意分野があり、得意な人にやらせるという一つの答えが出た。</p>
<p>委員長</p>	<p>それぞれ得意分野で活躍していただくことが大切だということだが、皆で情報共有ができていないというか、どこに得意な人がいるとか、行政が人探しに苦勞していると思われる。パブリックコメントの説明でも情報共有の話が出たが、どちらかという行政に情報開示をしろというスタンスの意見が多い。逆に言うと住民側の情報も役所に伝わってなく、そこでミスマッチが起こっている。</p>
<p>委員</p>	<p>町政座談会の開催に当たって回覧は回るが、当日は何もない。当日に町政懇談会の開催をお知らせする広報車が回れば住民の参加は増えると思う。そうすると住民から意見も出ると思う。そして、その住民の意見が取</p>

<p>委員長</p>	<p>り上げられて改善されたとなると、次も参加するなど住民にも積極性が出てくると思う。住民参加をさせるということは住民の意見を具体化させることが非常に大事だと思う。</p> <p>参加して意見が反映されて良くなったという実感が湧くのがいい循環に繋がっていくということである。今、そのきっかけづくりのとことで失敗しているのではないかという意見であった。</p>
<p>委員</p>	<p>町政懇談会は何がテーマなのかが見えなく、これに参加すべきなのかどうか迷った。地域のミニ議会のようなレベルなのかと思った。そうであれば聞きに行く理由とはなんなのだろうかと思う。地域の課題は最終処分場だけではない。懇談のテーマを明らかにしなければならない。</p> <p>それから、自分の経験から言うと女性の参加が少ない。家庭の中では男性が行くんだという発想が女性にあるとすればこれは違う。あと、若い人の参加が少ない。興味のあるようなお知らせもないのでそういうことになってしまう。女性も参加して発言が多くなるような会議にならないと、いつまでも私たちが質問する会議になってしまうし、夜の限られた時間ともなれば集る人は限られる。方法論的に考える必要があると思う。</p> <p>今回のテーマである条例策定に向けては、年代や性別を問わずいろんな人に広げていくようにやり方を工夫していかないと難しいと思う。それに、町民が関係ないという気持ちを持っていては限られた人しか集まらない。そここのところを改める必要があると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>資料6のアンケート調査について、分母はどのくらいか。住民参加と言ってもかなり低いレベルのアンケートだと思う。町民自身が問題を抱えていない結果だと思う。</p> <p>二つ目は若い人の関心が少ない。60～70代の方は長年住み慣れたところを何とかしようと思っているが、若い人は夢も希望もなく、放射性最終処分場が建設されれば加美町には住めないという思いが無きにしても非ずである。町全体の意見を集約して条例を作っていくには、その辺をきちんと吸い上げていくことが今後の課題になると思う。</p> <p>三つ目は、加美町が抱えている課題の原因等を解明していかなければならず、それを新たな発展の方向に向かわせていくことはかなり難しいのではないのかなと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>アンケート回収率は35パーセント。</p>
<p>委員</p>	<p>町民の意見をまとめるには少なくとも5～6割ぐらいあれば正しいデータが得られると思う。</p>

委員長	<p>意見のとおり、参加してもそれがどうなのかというところで今一つ分からないということがあると思う。そういう意味で、女性を含めた若い人たちに成功体験が感じられるようなことが必要だと思う。</p>
委員	<p>スポーツ大会とか夏まつり等のイベントでは推進委員の方々が実務的なところを主体性を持ってやっていただいている。</p> <p>地域にはまだまだいいところがあるということで、別な協議会を立ち上げたらどうかということで機運が高まっている。</p> <p>女性や若い人が入り、私たちはこういうことが出来るといった意見が出てくるといいと思う。</p>
委員長	<p>会合では、住民と行政が直接対決方式みたいになってなかなか上手くいかない。住民だけで話をまとめても、役所でダメになることがあるので、町内の方や外部の専門家など、その間をうまく取り持ってくれるニュートラルな立場をとれる方がいるといいと思う。立ち上げの段階においてはそういう第三者をうまく使っていくことが必要だと思う。</p>
副委員長	<p>ワールドカフェに参加しての感想だが、高校生と中学生に参加をさせていただいて、それぞれにコミュニティがあると思った。町政懇談会とPTAの懇談会があったとしたら、お母さんはPTAの懇談会に出席すると思う。そういった子供を介在としたコミュニティもあるだろうし、若年層はSNSも含めて形成されているコミュニティがあると思う。そういう中で意見集約できる体制づくりが必要かと思う。団体の充て職で意見を集約しようとしても限界があると思うし、今日のように午後2時の時間帯に若年層に出席を求めても無理な話だと思う。そういう問題への対応を考えていかなければならないと思う。</p>
委員長	<p>参加しやすい形をつくるための条件整備のためにはいろいろな工夫をしていかなければならない。</p>
委員	<p>ワークショップ等を開催するに当たって一番気にするのは時間帯である。日中の時間帯に出席して下さいとは言いにくいし、無理だろうと思う。皆さんが一番参加しやすい時間帯とか場所を気にしてワークショップを開催している。</p> <p>参加者集めには、いらしてくれませんかとチラシを持って回ったり、お友達を誘って下さいという風に声掛けをするように心掛けている。</p>
委員	<p>体育館におけるスポーツの地区行事に関して、小野田地区に22の行政</p>

	<p>区があるが、種目や時間、年齢層等いろんなことを考慮したとしても、全ての行政区が参加することは難しいのが現状。土日に仕事をしている人が多いので、日曜日に開催したからといって人を集められるわけでもなく、また、高齢者の種目だと人は集まるが、若い人を対象とした種目だと人集めに苦勞しているようである。女性を対象にした種目は、子育てや仕事で参加出来ない事情がある。それから、小さい行政区だと人が限られて難しく、大きい行政区だとコミュニケーションに限界があって声をかけづらいという要因もあり、厳しい現状だと思う。また、若いスポーツ推進委員のところは若い参加者が多かったり、年配になると年齢の高い人たちが多くなる。それぞれの地区で選手集めには苦勞していると思う。小野田地区の町民運動会には全行政区が集まるが、そこが限界なのかなと思う。</p>
委員	<p>人を集めるにはいろんな形態がある。それぞれに立場とか都合の良い時間とか日とかあると思うので、出れる人のパターンで数多くやって多くの人に参加してもらうようにしないと難しいと思う。</p>
委員長	<p>若い人であれば会合とは違う形の SNS とかでの参加ということも工夫していかないといけない。アンケート結果も若い人の回答数は少ない結果となっているが、それに参加したところでどう変わっていくのかという実感がないという問題が大きいと思う。その辺をどう打破していくかが課題になってくると思う。</p>
委員	<p>加美町になっても中新田、小野田、宮崎が一緒になっていないように見える。イベントで人が集まっても各地区に分かれてしまう。まちづくりをするためには皆で積極的に輪を作っていかなければいけないと思う。</p>
委員	<p>加美町は全体的に参加しやすさなど、雰囲気的にはまだ一つになれていないと思う。施設についても、使用の手続きを教えるなどして使いやすくする必要がある。会議も時間帯とか出席しやすさが大切だと思う。</p>
委員	<p>加美町の区長会では、町をどうすべきかという議論は1回もない。西小野田地区では行事への参加率をどうしたら伸ばせるか毎年議論している。若い人を参加させるために、行事の時は小学校や保育所の子どもたちを参加させるようにしている。そうすると親や祖父母が付いてくる。また、行政区毎に参加者を割り当てて区長にお願いをしている。</p> <p>事業をやるにはお金が必要である。小野田の運動会ではいろいろな工夫をして商品の数を増やしたことで、大変参加率が多くなった。</p> <p>若いお母さん等は家庭内のコミュニケーションがあり、休日は家族で出かけることから人を集めるのは難しく、また、行事に参加するなら出かけ</p>

委員	<p>た方が良いという状況になってきている。今後、コミュニティ事業はどうかなるのかなと思う。</p> <p>子どもたちが減少しているという原点から考えていかないと、まちづくりは大変ではないかと思う。地区では声掛けなどいろいろやってきている。先生方など第三者から素晴らしい提案を出していただければいいと思う。</p> <p>加美町の全行政区で均一に協働のまちづくりというのは理想だが、原点を考えるとあり得ない話である。これが切り札だと言って出されて全行政区に当てはめても、全て成功ということはある得ないと思う。まちづくり条例を我々でまとめていく時に、全ての町民というのは難しいので、有志になってもしょうがない部分があると思う。20～30年前とはライフスタイルが変わっているので、親子で買い物に行くのを止めるということは不可能な話なので、出来る範囲の中でやっていくべきだと思う。加美町独自のものを皆で議論していくというところからしか始めようがないのではないか。</p> <p>お金を出すと人は集まるが、カンフル剤としてはそうだけど、いつまでもかということになる。今、農村部で水路の掃除に出たりすると一人2千円とかお金が出るが、そういうまちづくりではないだろうと思う。これから求められるのは、金で解決するのではなく、最終的にはボランティアな気持ちを皆がどこまで持ち出せるかである。</p>
委員長	<p>市民農園を調査したことがある。長野県の市民農園では農家と利用者で先生と生徒みたいな関係ができています。それで親戚付き合いが始まったという話を聞いて、お金でばかり解決するのも良くないと改めて感じた。</p>
副委員長	<p>何事も出来る人にしか出来ず、全員に何かを同じように求めるのは難しいと思う。3地区が同じようなことを同じようにというのは無理だと思う。それぞれコミュニティの形成の仕方が違うので、人集めにしてもそれぞれに合った仕方というものもあると思う。どこかの成功事例が必ずしも当てはまるとも限らないし、それが必ずしも正しい方向ではないと思う。町全体としていいまちづくりができるのは一番だと思うが、そこまでに持つていくためのプロセスや手法はそれぞれの地域やコミュニティに適した方法があるのではないかと思う。</p>
委員	<p>ボランティアグループも3地区それぞれ違う。個人参加としての会員や趣味の会の会員としてグループ参加などそれぞれ特徴があり、その地区に合ったボランティア活動をしている。</p> <p>総合計画審議会があるが、充て職でそれぞれ関係のない団体の長が集ま</p>

委員	<p>っている。こういう選び方では人がたくさんいて意見を言えない。また、そういう審議会から出た意見を町がどこまで吸い上げているのか。私の経験では参考にとどまっている。町民の意見や考え方が分かるようなシステムを作っていないと何のためなのかと思う。時代が変わってきているので、コミュニティについてもいろいろ問題点を割り出し、何が良いのか悪いのか検討して、それを条例化していかないといけないと思う。</p> <p>PTAの役員は行事に関する連絡をラインでしている。そして、参加するのは役員をやっている人がしょうがなく来ている。学校との話し合いでもPTAはいろんな事情で集まらないという問題があり、そういうものも含めた条例のシステムをと思う。</p> <p>鳴瀬のコミュニティ協議会は、全戸から年間1,500円の会費を徴収してイベントを実施している。運動会は鳴瀬小学校と合同で実施している。当時の校長が教育熱心な方で、運動会を地区と一緒にやりたいという話があって実現した。秋のコミュニティ祭りでは、人集めのために小学校の子ども作品を中新田交流センターで飾っている。そうすると親と祖父母が祭りに来る。指定廃棄物最終処分場の件で、地区で女性の集まりがあったが53名位集った。</p>
委員	<p>水路の掃除に出るとお金が貰えるという話について、それは、農林水産省の事業で、地域の用排水路とか環境資源を守るための事業であり、出席した人には対価を払うことが出来ることになっている。他にも小学校、PTAとの活動などもあり、ただ単にお金が出るということではないので、その辺の誤解は解いていただきたい。</p> <p>町全体でもそれぞれ立場が違うと思うが、PTA活動や地域コミュニティ、スポーツ少年活動などは活発に活動している。それが一つの大きなところに連携されていくことが目的だと思う。それをいかにして取りまとめていくのはどうあるべきかと思う。</p> <p>町には立派な町民憲章がある。これからの時代を担う子どもたちが地域の中できちんと成長して働く所に行って活躍し、定年期頃になって落ち着いたら地域に戻ってきて欲しいと思っている。他に働きに行った方が故郷は良かった、故郷に戻りたいと思えるようなまちづくり、そして、次代を担う子どもたちについては、良い思い出が残る環境をつくり、帰ってきた時に何ら違和感がなく住民と交流を持てるようにすべきと思う。方法とかは千差万別で良く、何もかにも大きな一つの枠の中でやる必要はないと思う。</p>
委員	<p>二点だけ参考意見として話したいと思う。一点目は、参加の活動拠点の作り方はこれから工夫が必要になる。その中で大きな役割を担うのはコミ</p>

委員長	<p>ユニティ推進協議会で、ここの機能や役割を強化していくことが大事になるのではないかなと思う。その時にいろんな世代の考えを共有するために、学校と公民館、行政区等がどう連携して地域の課題を解決していく方向に向かう場が作れるかというところがポイントになると思う。公民館も従来の生涯学習だけではなく、まちづくりとか地域づくりに目を向けたコミュニティ事業や地域の事業についても計画・実施・評価・検証というPDCAで地域を運営していくマネジメントをしていく仕組みが必要と思う。町が実施している提案型まちづくり事業もあるので、そういうものに若者の提案等を応募して多様な人達が担える地域のコミュニティづくりを進めるというのが重要な点だと思う。行政においては、職員が地区との繋ぎ役になって地域へ情報を運んだり地域の課題を吸い上げて行政へ届ける橋渡しとしてのコミュニティ担当制のようなものが必要であるというのがコミュニティから視点である。</p> <p>二点目は、相模女子大の松下先生から聞いた話。全国的に若者政策は議論されるが政策はない。高齢者と女性については、総合計画で高齢者福祉対策が謳われており、男女共同参画や子育て支援についても充実しつつある。しかし、若者政策を謳っている自治体は少ないのではないかと問題提起をしていた。それは、若者と会話ができる言葉を持っている高齢者がどれだけ地域にいるか、交流できるかを、これから若者政策として議論しなければならぬという話である。日本で一番進んでいるのは、愛知県の新城市である。行政としてお題目だけの若者政策ではなく、本気になって踏み込むタイミングが必要になってきていると思うので、町の総合計画にも若者政策を柱に組み立てるということも必要ではないかなと思う。</p> <p>問題意識をこの場で共有できたかなと思う。議事録を作って整理していきたいと思う。今日の話のポイントとして思ったことは情報共有である。行政や行政区、各団体の中で共有できていないことが課題としてあげられると思う。その中で集まりやすさというのが大事だということで、それは単に場所や時間だけの問題ではなくて、人のネットワークの中での集まりやすさというものもあったかと思っている。旧町の中でも条件や環境が違うので、全て平等に扱うということは無理がある。それぞれの地域の状況に応じていろんな手を使っていかないといけないと思う。</p> <p>まちづくりは人づくりということで、いかに若い人を巻き込んでいかも含めて、まちづくりに積極的に関わってもらえる人をどう育てていくかが重要だと思う。その中では自分の意見が実現されていく成功体験の場面で出来るような取り組みが出来れば良いと思う。それを条例に書くのは難しいので、こういう問題があるということ念頭に文案を考えていかないといけないと思う。今後議論していきたいと思う。</p>
-----	---

<p>事務局</p>	<p>【その他】 次回の委員会については年明けに開催したい。日程については決まり次第知らせる。</p>
<p>委員長</p>	<p>時間帯どうするか。</p>
<p>各委員</p>	<p>日中という意見多数。午前という意見もあり。</p>
<p>副委員長</p>	<p>【閉会のあいさつ】 この機会に一つPRさせていただきたい。商店街にぎわいづくり委員会では、宮城大学の風見先生がコーディネーターを務めるパネルディスカッションを、年明けの1月22日に中新田公民館で開催することに決定した。当日はにぎわいづくり委員会の活動報告並びに各委員からまちづくりに関するアイデア等のプレゼンテーションを企画している。委員の皆様にも参加いただきたい。詳細については回覧や文書で案内をさせていただく。 本日は長時間に渡り大変お疲れ様でした。今後ともご協力をお願いしたい。</p>